

2026 年 1 月吉日

2025 年度 大東文化大学大学院 英文学専攻 特別講義のご連絡

2026 年 2 月 19 日(木)、同月 20 日(金)に大東文化大学大学院 英文学専攻 特別講義を開催する運びとなりました。両日共に大東文化会館で開催いたします。

特別講義の流れや詳細等のご確認は下記をご参照くださいますようお願い申し上げます。

記

■2025 年度 大東文化大学大学院 英文学専攻 特別講義

日 時: 2026 年 2 月 19 日(木)、20 日(金)

開催場所: 2 月 19 日(木)、20 日(金) 於大東文化大学 板橋キャンパス

開催時間: 開場:10 時 00 分、開会:10 時 20 分(昼休憩あり) 閉会:15 時 00 分

事前申し込みについて:ご参加希望の方は以下の URL または QR コードにて必要事項をご入力の上、2 月 15 日(日)17:00 までにお申し込みください。

参加申込受付フォーム

URL:

<https://forms.gle/ukdH2jTLitwP3MWm9>

[必要事項]

- 1 ご参加予定日
- 2 お名前
- 3 お名前(フリガナ)
- 4 メールアドレス
- 5 ご所属
- 6 学籍番号 申し込みフォーム



申し込みフォーム

プログラム

	2月19日（木）	2月20日（金）
10時00分	受付開始	
10時20分	開会式	
10時30分 ～ 12時00分	「トニ・モリスンが切り拓く アメリカ文学の地平線」 明治学院大学 国際学部国際学科 教授 森 あおい先生	「接近遭遇について —Graham Greene と映画」 立教大学 文学部 英米文学専修 教授 小山 太一先生
12時00分 ～ 13時30分	昼休憩	
13時30分 ～ 15時00分	「マンスフィールドの『人形の家』 について—絵画的アプローチ—」 中央学院大学 法学部 法学科 教授 柴田 優子先生	「モームの短篇小説の改変を めぐって—原作と映画の比較考察」 日本大学 文理学部 英文学科 准教授 前島 洋平先生
15時00分 ～ 15時15分	閉会式	

ご不明な点等ございましたら、以下の英文学専攻のメールアドレスにご連絡ください。

(dbu.postgrad.englit@gmail.com)

以上

2025 年度 大東文化大学大学院

英文学専攻 特別講義 要旨

2/19(木)

10:30～12:00

「トニ・モリスンが切り拓くアメリカ文学の地平線」

明治学院大学 国際学部 国際学科 教授 森 あおい先生

本講義では、黒人女性として初めてノーベル文学賞を受賞したトニ・モリスン(1931-2019)の編集者・作家・教育者としてのキャリアの足跡を辿りながら、彼女がアメリカ文学の新たな可能性を切り拓いた過程を見ていきます。特にポスト公民権運動時代にアメリカ文学の枠組みを人種やジェンダー、階級等の視点から問い直したモリスンの作品や批評を、プリンストン大学ファイアストーン図書館所蔵の Toni Morrison Papers や、最近刊行されたモリスンの編集者時代の伝記(Dana Williams 著, Toni at Random, 2025)を踏まえて読み解きます。

13:30～15:00

「マンスフィールドの『人形の家』について—絵画的アプローチ—」

中央学院大学 法学部 法学科 教授 柴田 優子先生

マンスフィールド文学はイメージ豊かで、絵画と親近性があると言えます。本講義では、「人形の家」を中心に絵画的アプローチを試みます。特に黄色という色彩を取り上げ、キンボウゲの印象的な場面に隠されたイメージを探ります。また、絵画の一様式「画中画」ならぬ「家中家」（家の中の家）としての「人形の家」の意味も考えてみたいと思います。

2/20(金)

10:30～12:00

「接近遭遇について—Graham Greene と映画」

立教大学 文学部 英米文学専修 教授 小山 太一先生

近年では、文学作品の映像へのアダプテーションはそれ自体がひとつの研究ジャンルを成しているようである。しかし、いわゆる文学研究というディシプリンの枠内で、原作を持つ映画を「派生物」あるいは「絵解き」以外の何物かとして捉えることは可能なのだろうか。文学研究と映画研究は、しょせん‘never the twain shall meet’ の関係にあるのか。本人も映画マニアであったグレアム・グリーンを例として、この問題を考えてみたい。

13:30～15:00

「モームの短篇小説の改変をめぐって—原作と映画の比較考察」

日本大学 文理学部 英文学科 准教授 前島 洋平先生

サマセット・モームの作品は長編、短編を問わずしばしば映画化されてきた。とくに短編作品の場合は大きな改変が見られ、原作の読み直しを迫られることさえあった。本講義では、“Gigolo and Gigolette” (1940)、“The Kite” (1947)、“The Colonel's Lady” (1947) という3つの短篇作品を主に取り上げ、それぞれの映画と比較しながら各作品の特徴と新たな解釈の可能性について考察したい。